

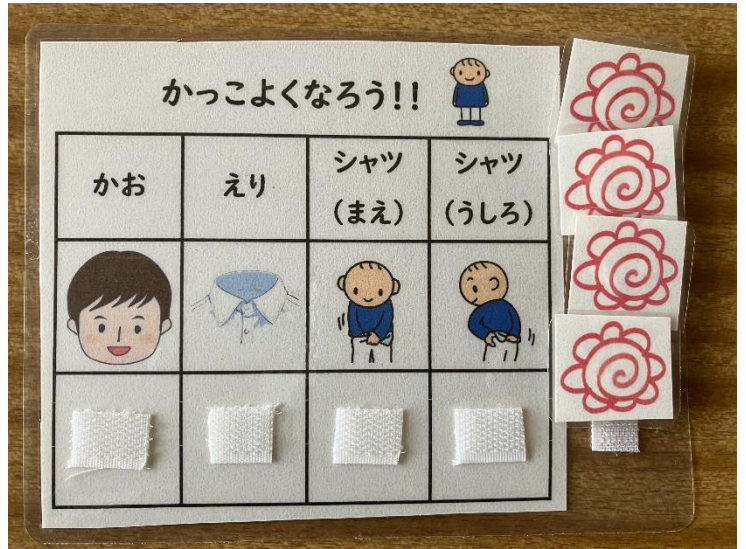
# 相談支援つうしん

<第98号>2023年3月22日  
県立湘南支援学校 支援連携グループ  
相談支援班 ~教師編~

今回は日常生活で使っている支援グッズを紹介します。

## ★かっこいいチェックカード（身だしなみチェックカード）

高等部になると制服に近い服装(通学服)で登下校することが増えます。朝は自宅から服装を整えて登校してきますが、帰りの着替えの時に襟が立っていたり、インナーが出ていたりしていることがよくありました。「直すよ」と声をかけても、どう直すのかわからなかったり、そもそも「これでいいんだ」と間違えに気付かなかったりしたこともありました。そこで見本となるものを作り、鏡を見て直せるようにしました。また、一つひとつに花丸を付けることで、達成感を感じられるようにしました。使い始めは、鏡の前で直し方を一緒に確認をしました。チェックシートがあることで鏡を見ながら直せるようになってきました。最近では、「襟を直そう」と言葉がけをするだけでも直せることもあり、少しずつ定着してきていることを感じました。

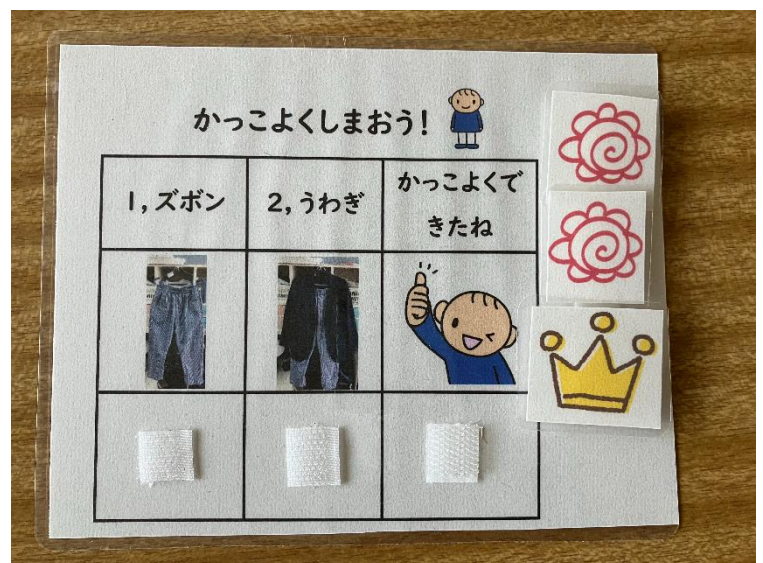


今回は襟の見本をイラストにしたのですが、本人の通学服の方がよりわかりやすかったと思いました。また、夏にチェックシートを作ったので、シャツだけのイラストにしましたが、冬になりジャケットを着るようになりました。「ジャケットも襟も同じに直してくれるだろう」と思っていたのですが、現実はそんなに甘くありませんでした。始めはジャケットの襟を立てていました。シャツとジャケットが一緒になっている見本をすればよかったと後悔しました。しかし、一緒に直し方を確認することでシャツと同じように直せるようになりました。是非身だしなみに気を付けさせたい方は、参考にしてみてください。



## ★ハンガーにかっこよくかけようカード

制服のズボンとジャケットを畳んでしまっていたので、ハンガーにかけてほしいと思い「ハンガーにかけよう」と声かけをしました。ズボンはかけてくれるけど、ジャケットはかけられなかったり、ジャケットをかけてからズボンを掛けようとしたりと悪戦苦闘しました。その時上の「かっこいいチェックカード」で身だしなみを直せたので同じようにしたら…と思い、右のものを作ったら大成功！前回の反省を生かし、生徒が使っているもので見本を作り、やってほしい順序を示したことで、チェックシートを見ながら間違えることなくハンガーにかけられるようになりました。



裏面では、私の受講した初任者研修「言葉・数の指導と教材教具」の内容を報告させていただきます。

## <小学部段階における学習の順番について>

学習は視覚、聴覚の感覚を高める**初期学習**、目と手の協応動作を高める**基礎学習**、文字や数を扱う**記号操作の学習**へと発達段階に応じて変化してきます。子どもの学習の発達段階は今どの状態にあるのかを知っておく必要があります。

### 初期学習

状態像：物と活動しているときには人に注意を向けにくい。触覚と運動が優先され、手の動きの後に目がついていく。縦方向の活動を好む。絵や写真などの平面の手段は興味のあるものだけに限られる。

内容例：プットイン、スライド棒など穴に落とす、さす、積む、つまむ、触る、握るなどの単純な操作。

### 基礎学習

状態像：手の動きよりも視覚が優先される。言葉だけではイメージを持ちにくく、目の前の物を手掛かりにしている。横方向の活動、平面を把握する活動へ広がりを見せる。(しゃぼん玉を追ったりする)

内容例：平面でのマッチング、形が複数ある型はめ、形の分別、順序が決まっているペグ差しなど。

### 記号操作の学習

状態像：10種類程度の図形の分別ができる。パズルを好むロゴやマークに関心がある、TVのキャラクターをよく知っている(文字学習) 数唱、計数、大小比較、数字の読み書きなどができる(数の学習)

内容例：文字(一字、単語)同士の分別、絵と文字のマッチング、玉紐を数唱しながら操作するなど。

また、発達段階と合わせて学習の順序性を意識することも重要です。

例えば○、△、□の形のパネルがあったとします。子どもが一番認識しやすく、また逆に認識しにくい(難しい)のはどの形でしょう? 正解は○→□→△です。この順に認識の難易度が上がっていきます。

人が形を認識するときには○から発達していくからです。(脳内ニューロンという神経細胞の働きだそうです) ○顔のキャラクターは子どもに人気なものが多いですね。○の形が子どもにとって一番認識しやすいということを踏まえるとそれも理にかなっています。



このようにただ教材を使用するだけではなく、どうすれば教材の難易度が上がっていくのか(形を変えたら? 利き手とは逆の手に教材を提示するようにしたら? 選択肢を増やしたら? などなど...) を考えながら教材を使用していくといいですね。

相談カード(教員用) 記入日 令和 年 月 日

対象児童生徒 小・中・高 年 氏名(イニシャル)

1. どのようなご相談ですか?(○をつけてください)

- ①行動面について ②学習面について ③コミュニケーションについて ④運動面について  
⑤家庭に関すること ⑥ その他( )

2. 困っていることは何ですか?

3. 今後どのような方法をご希望ですか? ①情報提供 ②アドバイス ③ケース会 ④他校専門職との連携  
⑤道具の工夫環境調整 ⑥その他( ) 担任→相談支援係へ提出をお願いします。